

首里城の復元

沖縄を訪ねたのは今回で2回目となった。1回目は20年以上前のことでここ首里城も見学したが、一部の城壁と小さな守礼門には期待外れの記憶が思われるだけである。

日本の西南諸島に1429年～1879年までの約間に渡って存在した琉球王国。ここ首里城は国の家族が居住する王宮であると共に、王国統治機関の本部でもあった。更には王国祭祀を運営教上の拠点として、美術・工芸の専門家が数多した文化芸術の中心ともなった。

その後、1879(明治12)年には首里城から国王が追放され沖縄県となる。更に歴史は進み、日本軍の駐屯地や各種学校にも使われ大規模な修理も行われたが、第二次世界大戦での沖縄戦においてアメリカ軍の攻撃により全焼する。

この首里城正殿は沖縄最大の木造建築として日本本土復帰20年の1992(平成4)年に復元されたもの。一見して日本と中国の建築様式を見事に取り入れられており、随所に配置されている龍は国王を象徴し、その他石柱や屋根上の棟飾などの装飾は圧巻である。

標高167.5mの弁ヶ岳からは素晴らしい那覇市のロケーションが見渡せる場所に首里城はあった。復元されてより初めての見学。それは素晴らしい日本本土にはない城であった。

2000(平成12)年には復元された建物や城壁は入らないが、首里城跡地として「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として日本で11番目の世界遺産に登録されている。 撮影 2012年春



い出さ
400年
王とそ
の行政
する宗
く活躍
が追放

